日本王代一覧

三

リ 5
5155
3

林董藏書

日本王代一覽卷之三目錄

六五 一葉 清和天皇　在位十八年貞觀十八。
七五 六葉 陽成天皇　在位八年　元慶八。
八五 十葉 光孝天皇　在位三年　仁和三。
九五 十一葉 宇多天皇　在位十年　自仁和四至寛平九。
十六 十四葉 醍醐天皇　在位卅三年　昌泰三。延喜卅二。延長八。
一六 廿葉 朱雀院　在位十六年　承平七。天慶九。
二六 廿四葉 村上天皇　在位廿一年　天曆十。天德四。應和三。康保四。
三六 廿七葉 冷泉院　在位二年　安和二。
四六 廿九葉 圓融院　在位十五年　天祿三。天延三。貞元二。天元五。

門 95
號 5155
卷 8

五 六世葉 花山院　在位二年　寛和二。永観一。

六 六世四葉 一條院　在位廿五年　永延二。永祚一。正暦五。長徳四。長保五。寛弘八。

七 六世八葉 三條院　在位五年　長和五。

八 六世九葉 後一條院　在位廿年　寛仁四。治安三。萬壽四。長元九。

九 六 四十四葉 後朱雀院　在位九年　長暦二。長久四。寛徳二。

十 七 四十五葉 後冷泉院　在位廿三年　永承七。天喜五。康平七。治暦四。

五十六代

清和天皇　文德天皇ノ太子ナリ。御諱ハ惟仁。母ハ藤原殿后藤原明子ナリ。太政大臣良房ノ娘ナリ。生テ九月ニ立ツ。大安二年八月文德崩ス。十一月太子九歳ニテ即位ス。給フ。外祖良房攝政ス。是藤原氏攝政ノ始ナリ。日本ニテ幼少ニテ帝位ニ即クヽハ。是天皇ヲ始トス。伊勢大神宮并ニ諸ノ山陵ニ。即位ノ由ヲ告ラル。外祖母源繁姬ニ正一位ヲ贈ラル。此ハ嵯峨ノ娘ニテ。良房ノ室。藤殿ノ后ノ母也　今年智證唐ヨリ歸朝ス　貞觀元年正月。年始ノ節會等。諒闇ノ内ナレバ皆コレヲ止ラル　二月。大和ノ三輪明神等二正一位ヲ授ラル。

其外諸國ノ諸社ヘ神位ヲ多ク授ラル。右大臣藤原良
相崇親院ヲ建テ。藤原氏ノ宅ナキ者ヲ居シメ。延命院
ヲ建テ藤原氏ノ病アル者ヲ居シム　三月和氣彛範
ヲ勅使トシテ宇佐八幡ヘ即位ノ旨ヲ申サル。帝王一
代ニ一度ヅヽ宇佐ヘ勅使ヲ立ラレ。毎度和氣氏ニ命
セラル。清麻呂カ先例ナルヘシ　四月攝津國ノ中ニ
テ。遊獵ノ地ヲ左大臣源信ニ賜ル　同月賀茂ノ祭。左
右近衛府左右衛門府左兵衛府ヲシテ。警固セシム。
五月渤海使若烏孝愼カ船。加賀ノ國ヘツク。安倍清
行ヲ加賀國ヘ遣サレ其書簡ヲ受取テ都ヘ捧ケ。勅書
ヲ賜テ。都ヘ入ニ及バス直ニ歸國セシム　七月賀茂松
尾平野大原野ニ輪春日住吉氣比日前等ノ社ヘ
勅使ヲ遣サル　十一月大嘗會ヲ行ル。其儀式備
シリ。此年僧行教宇佐ヘ參詣。八幡太神王城ヘ來テ。
寶祚ヲ守ルヘシトノ詫宣アルヨシ奏聞シ。始テ山
城國男山石清水ニ。官ヲ建テ崇ラル
二年正月大學博士春日雄繼。孝經ヲ天皇ニ授
奉ル。コレヨリ後。帝王ノ讀書始ハ。大方孝經ヲ用ラル
三年二月太政大臣良房ノ舘ニ行幸。百官皆供奉。
良房ノ家人等皆位ヲ授ラル　三月東大寺ノ大
佛ノ修理成就スルニヨリテ。供養行ル　五月渤海
使者船。出雲國ニツク。禮法タカフコトアルニヨリテ。コレ
ヨリ追返サル　六月前殿ニテ。童相撲ヲ御覽ゼラ
ル　八月天皇論語ヲ讀。春日雄繼侍講

四年三月在原業平從五位上ニ叙ス平城天皇ノ
孫阿保親王ノ子ナリ
五年正月大納言右大將源定卒ス嵯峨上皇ノ
愛子十一月同月ニ其兄大納言源弘卒ス是ハ學問ヲ
好ミ筆法ニ達シ管絃ヲ好リ　五月神泉苑ニテ
崇道天皇伊豫親王藤原夫人吉子橘逸勢文室
宮田麻呂等カ怨靈ヲ祭リ是ヲ御靈會ト云近年
打續疫病ハヤリ此年ノ春ヨリ殊ニ甚クテ人多死ル
ヨリテ此等ノ惡靈ノ所爲カト申者アルニヨリテ此
祭ヲ行ル　十月良房ヲ召テ宴ヲ賜リ六十ノ
賀ヲ行ル此年良房奉テ春澄善繩ヲシテ續日本
後紀ヲ作シム

六年正月元日天皇元服シタマフ御歳十五藤原
氏童兒十二人同時ニ元服ス　二月良房ノ館ヘ
行幸花ヲ御覽シ御遊又射場ニテ天皇自ラ御弓
ヲ射タマヒテ的ニアテタマフ又山城守紀今守ニ命
シテ農民ヲ召連來テ田ヲ耕ス体ヲ御覽ニ備ラ
ル民ノ艱苦ヲシロシメヤウニトノ事ナルベシ
五月富士山燃テ十日餘火消ス山上ノ磐石崩
テ海ヲ埋コト二十里ハカリ人家モ多ククヅレ始ハ
淺間ノ方ヨリ燃出テ後ニハ甲斐ノ國ノ方ヘ燒移ル
七年四月和氣彛範ヲ勅使トシテ石清水ノ八幡ヘ
楯弓鞍等ヲ奉納セラル　八月米百石豆百石ヲ
對馬嶋ニ賜テ銀穴ヲ掘シム霖雨ニヨリテ其穴ノ道

塞ルユヘナリ

百花亭ヘ行幸　閏三月朔日良房館ヘ行幸樣々ノ御遊アリ　同月十日夜應天門燒亡ス放火ナルベキカト沙汰アレドモ火災ノヲコルユヘヲ知ズ此比ハ良房ハ折々出仕シ政ヲ良相ニ任ゼラル此時大納言伴善男ト云者アリ大臣ニ望アレトモ其闕ナキユヘニ左大臣源信ヲ退ケハ良相左大臣ナリ已右大臣ナルヘシト思テ應天門ノ燒タルハ左大臣ノ所爲ナリト訴フ良相是ヲ信シ善男ト同道シ陣座ヘ出テ參議中將基經ヲ呼テ左大臣逆心アリテ應天門ヲ燒タリ急キ行向テ糺明セヨト云基經聞テ太政大臣ハ此事ヒリタリヤト問良相此比ハ太政大臣專ラ佛法ヲ信ジテ政ニカヽハズ故ニイヽタ此事ヲ知ズト云ヒ經コレハ天下ノ大事ナリ太政大臣ノ下知ナクハ兼引シカタシトテ即チ使ヲ以テ良房ニ告ル良房大ニ驚テ曰ク先帝時ノ今上太子タリシ時此人ノカニヨリテ御位サタヽレリ然シハ左大臣ハ功臣ナリ何ノ罪カアラン左大臣罪ニアハヽ良房先誅セラルヘシト奏セラルヨシニヨリテ左大臣無事ナリ　クニテ八月三日大宅鷹取ト云モノアリ應天門ハ善男父子夜中竊ニ行テ火ヲツケテ燒テ却テ左大臣ノ所爲ナリト奏スルヨシ訴ケレハ參議南淵年名藤原良繩奉テ糺明シケレハ紛レナク善男カ所爲ニ究ル死罪ニ行ルベケレトモ一等ヲ減シテ伊豆國ヘ

流サル。其子共同類皆流罪セラル。基經ハ良相ノ
養子ナリ。後ニ昭宣公ト申セシ人ナリ　七月染
殿太后病氣。叡山相應祈テ。驗アルニヨリ。傳教慈
覺共ニ大師ノ諡ヲタマハル。相應ハ慈覺カ弟子ナ
リ。慈覺ハ貞觀六年ニ寂セリ
九年十月。右大臣良相薨ス
十年十二月。左大臣源信薨ス。學問書畫管絃馬
鷹ノコトニテ二達タル人ナリ
十一年四月大納言藤原氏宗。弁ニ參議大江音
人。刑部卿官原是善等奉テ。貞觀格ヲ撰テ奉ル。
音人毛博學ノ人ナリ。菅家江家ト相並テ。代々
儒宗タリ　五月。奥州大地震。死者千餘人

六月。新羅海賊博多ヘ來テ。豐前國ノ貢船ヲ盜妨
ス。大宰府ヨリ兵ヲ出。是ヲ捕ントス。賊船早ク逃歸
十二年正月。藤原氏宗右大臣トナル。源融藤原基
經大納言トナル。融ハ嵯峨天皇ノ子ナリ
十三年二月。天皇紫宸殿ヘ出御アリテ。始テ自ラ
政ヲ聽タマフ。仁明天皇ヨリ以前ハ主上毎日紫宸
殿ヘ出御アリ。文德ノ代ヨリ以後此儀ナシ。今又舊
禮ニカヘル。人皆悅フ　四月。良房ニ食祿ヲ加ヘ。隨身
兵仗ヲタマハリ。三宮ニ准ゼラル。准ニ三宮是ヨリ始ル
八月。右大臣氏宗奉テ。貞觀式ヲ撰タテマツル
九月。五條ノ后藤原順子崩ス。仁明ノ后。文德ノ
母ナリ　十二月。渤海國ノ使者楊成規等。加賀

國ニ著岸ス

十四年正月少内記菅原道真等ヲレテ渤海ノ使者ヲ挨拶セシム道真ハ菅丞相ナリ　二月右大臣藤原氏宗薨ス　三月良房疾アリ錢五十萬ヲ賜ヒ祈禱ノ料トス又八度者八十人ヲタマフ僧正真雅法務ニ任ス　五月渤海ノ使者京ニ入鴻臚館ニ居レメ宴ヲ賜フ在原業平等勅使トシテ行テ然カフ其外文人等行向テ参會ス都良香モ其挨拶ヲナス良香ハ博學ノ人ナリ其後使者勅書ヲ賜リ参内ニ及ス鴻臚館ヨリ歸國鴻臚館ハ玄蕃寮ナリ異國人ヲ置所ナリ東寺羅城門ノ邊ニアリ　八月源融左大臣ト十九藤原基經右大臣ト十九　九月二日大政大臣從一位藤原良房薨ス年六十九正一位ヲ贈リ義濃公ニ封シ忠仁公ト諡ス源融ト基經ト左右大臣ニテ政ヲ執トイヘトモ威權專ラ基經ニアリ

十六年二月新ニ道場ヲ建テ貞觀寺ト號ス大齋會ヲ設ラル　四月淳和院燒亡其火飛テ内裏ヘ及ル基經等急參テ火ヲ防ヒメテ早クヒツヽル淳和院ハ淳和天皇位ヲスヘリテ後ヲハセシ所ナリ

十七年正月冷然院燒亡是ハ嵯峨天皇ノ隱居所ナリ納置ル文書其外財寶皆滅ス大原雄廣ト云者火ヲ防テ燒死ス　四月天皇五經史記群書治要ヲ讀菅原是善菅野佐世大江音人等授奉ル

十八年四月十日大極殿其外殿門多ク焼亡ス。放火ノ疑アルニヨリテ勇士ヲシテ洛中ヲ巡検セシム　五月伊勢并賀茂松尾ノ社ヘ勅使ヲ遣シ大極殿焼亡ノ事ヲ申サル　七月大極殿ヲ作ル　十一月天皇位ヲ第一ノ皇子貞明親王ニ譲ル右大臣基経ヲシテ攝政セシムルコト忠仁公ノ例ノコトシ　十二月清和ニ太上天皇ノ尊号ヲ奉ル　後ニ水尾山ニ入タマフニヨリテ水尾帝トモ申ス年号貞觀在位十八年

五十七代

陽成天皇　清和ノ太子ナリ諱ハ貞明母ハ皇太后藤原高子ト云ヒ故中納言長良ノ娘ニテ右大臣基経ノ妹ナリ世ニ二條后ト云ハ是ナリ此帝貞觀十年ニ生レテ同十一年ニ太子トナリ十八年十一月清和位ヲ譲リ明ル元慶元年正月二日天皇即位大極殿イマタ造サルニヨリテ豊樂殿ニテ行ル　ワヅカ御年八歳ナレハ基経攝政外祖藤原長良ニ左大臣正一位ヲ贈ラル　二月渤海ノ使来ル　出雲國ヨリコレヲ歸ス　六月旱シテ久雨降ス　伊勢八幡賀茂等諸社ヘコレヲ禱ル　十一月大嘗會　十二月元慶寺ヲ造ル

二年二月善淵愛成ヲシテ日本紀ヲ讀シム　三月出羽國ノ夷賊千餘人起テ秋田城ヲ焼破ル國司藤原興世是ヲ防ノ敗軍シ五百餘人討ル、由

注進ス　四月又賊ト戰テ官軍敗シカバ　五月藤原保則ヲ出羽ヘ遣サレ近國ノ兵ヲモヨホシテ伐シム　六月小野春風ヲ鎮守府將軍トシテ奥州ヘ遣シ兵ヲ催シムヽ又東海道ノ國々ヨリモ加勢ヲヤラシム　七月保則出羽ニ到テ賊ヲ討テ小勝ヲ得タリシカレトモ賊津輕等ノ地ニ猶充滿ス

九月關東國々大地震

三年正月出羽ノ夷賊降參シ國中無事ノ由注進ス　五月清和太上天皇落飾　十月大極殿成就ス饗宴ヲ行ル

四年三月太上天皇山城大和攝津ノ名山佛閣ヲ見巡テ丹波水尾寺ヘ入リタマフ　意ヲ佛法ニ帰タムケテ頭陀ノ行ヲシタヒタマフ　五月左中將在原業平卒ス歳五十六倭歌達者好色ノ人ナリ

十一月八日右大臣基經攝政ヲ止テ關白トナル是關白ノ始ナリ此月ノ末ヨリ太上天皇不例

十二月四日基經太政大臣ニ任ス良房基經父子相續シ攝關相國タリシヨリ朝廷ノ權柄皆藤原氏ニ歸ス太上天皇崩ス歳三十一樣々ノ追善アリ

六年正月二日天皇元服基經加冠タリ大納言源多理髮タリ其儀式嚴重ナリ源多右大臣トナル藤原良世藤原冬緒大納言タリ在原行平源能有中納言トナル　二月基經准三宮隨身兵仗ヲ賜ル

七年正月渤海使裴頲等加賀國ヘ來ル秋ニヨリテ四月京ヘ來リ鴻臚館ニ入菅丞相此時ハ文章博士タリシガ假ニ治部大輔トナリテ渤海ノ使者ヲ挨拶ス治部ハ異國ノコトヲ掌ル官ナリ裴頲文才アリ菅丞相ト詩ノ贈答アリ　五月裴頲等ヲ内裏ヘ召シテ饗宴ヲ賜ヒ又馬ニ乘セ弓ヲ射ルヲ見セシム其後飯國　十一月天皇馬ニ乘コトヲ好テ内裏ニテ馬ヲ飼シメ常ニ驅騎賤者ヲチカツケタマヒテ作法アシキコト多カリケレハ基經是ヲ聞テ參内シ近習ノ小人小野清和等ヲ追出ス其後天皇モノクルハシク ナリタマヒテ或時ハ蛙ヲ聚テ蛇ニ呑シメ或時ハ猿ト犬トヲ鬬シメテタハムレヲナス罪ナキ者ヲ殺シ果ニ違者アレハ自ラ寶劒ヲ拔テ追奔リタマフ基經諫レトモ羨引ナシ

八年正月天皇惡逆弥甚シ基經參内シ窺ヘハ人ヲ殺ヘノホラシメ是ヲ笑樂ム基經カクテハ帝位アヤウシト思ヒ近ク參テ御徒然ニ見ヘ侍リヌレハ競馬ノ遊ヲ催ベシ行幸御覽アルベシト奏ス天皇悅ム日限ヲ約ス　二月四日御車ニメシテ出御アリ基經内裏ノ門ヽニ番ヲノスヘ堅ク守シメ御車ヲ二條陽成院ト云所ヘヤリテ奏聞シ御狂病ナレハ帝位ニヽシヽサンコトヽ叶ヘカラズ故ニ御位ヲスヘラセ申スナリトテ天皇

涙ヲ流シ悲ミモカイナシ。即チ太上天皇ノ尊号ヲ奉ル。時年十七。此時基経威権甚強シ。群臣皆畏ルヽカレトモ左大臣源融獨此事如何アルベキト思案ノ體ナリ。藤原諸葛ト云者剣ニ手ヲカケ。誰カ太政大臣ノ仰ニ背ンヤト云。融黙然タリ。コレニヨリテ異儀ニ及ズトナン。或説ニハ融モ皇子ナルユヘ即位ノ望アレドモ。既ニ人臣ニ列スルユヘニ基経許容セズ。又一説ニハ。天皇多病ニヨリテ。宸筆ノ勅書ヲ基経ニタヽハヽリテ。位ヲ辭退シタヽフト云リ。是ハ朝廷ヲハヽカリテ。天皇ノ悪ヲ諱カクシタルベシ。天皇在位八年　年號元慶

五十八代

光孝天皇　仁明第三ノ子ナリ。諱ハ時康。文德清和陽成ノ三代ヲ歴テ。一品式部卿親王ト号ス。陽成位ヲスベリテ基経ノハカラヒニテ思ノ外ニ元慶八年。二月二十三日即位。時歳五十五基経關白タリ。三月外祖藤原總継ニ正一位ヲ贈ル　四月。天皇始テ文選ヲ讀。橘廣相侍讀タリ　五月左大臣源融勅ヲ奉テ。菅丞相時文章博士善淵永貞大藏善行等ノ博士等ヲ召テ太政大臣ノ官ハ天子ノ師範ナレハ職掌アルベカラサルカ。但三公ノ第一ナレハ天下ノ政ヲ知ベキカト尋ラル。博士等各申旨アリ。此時基経ノ威ヤカンナレハ太政大臣職掌ナシト云テ。其威

ヲ〈サントノコトナル〈キカ。然ドモ萬機ノ政ニツ基經
ニ申。後奏聞ス　十一月。大嘗會行ハル
仁和元年正月。攝津ノ内ニテ。遊獵ノ地ヲ基經ニ
賜ル　四月。基經五十算ヲ賀シタマフ　八月。
神泉苑ニ行幸。魚ヲ釣。又馬ヲ御覽アリ
十一月。僧正遍昭ヲ召テ。其七十算ヲ賀シタマフ。
二年。正月。基經嫡男時平十六歲。内裏ニテイテ
元服。天皇御手ヅカラ加冠シタマフ。基經樣々
ノ物ヲ獻シテ謝シ奉ル　八月丁未。釋奠。例
ノコトシ。博士周易ヲ講ス。基經來テ孔子ヲ
拜ス　十二月十四日。芹川野ヘ行幸。鷹狩シ
タマフ。天皇遊獵ヲ好テ。屢出御アリ

三年四月。伊勢石清水ニ幣帛使ヲ立
テラル　五月。山城國大原野ヲ。陽成太上皇ヘ行
ラ仕テ。遊獵ノ地トス　八月。内裏ニ樣々ノ怪異
アリ。此月二十六日。天皇崩ス。歲五十八。是ヨリ
先キ。平城嵯峨淳和。詩文ヲ作コトヲ好ム故ニ。其
比ハ文才ノ臣ヲ、シ。此天皇倭歌ヲ好ムユヘ。是ヨリ世
人皆倭歌ニ志スヲ以テ要トス　在位二十年
年号仁和

五十九代

宇多天皇　光孝ノ第三ノ子ナリ。諱ハ定省。母ハ
皇后班子仲野親王ノ娘ナリ　光孝卽位ニ
時御子達ニ戲テ。我若帝位ニ昇ラバ汝等何

ノ望カアルトニ云太郎是忠ハ筑紫ヲ賜ラント云次
郎是貞ハ東海道ヲ賜レト云三郎定省ハ東宮ニ
立ントニ云其後光孝即位定省侍從ニ任ズ光孝ノ
病中基經等カスヽメニヨリテ定省ヲ太子トス
程ナク光孝崩ス基經太子ヲ大極殿ヘ誘引シ
即位セシム御歳二十一時仁和三年十一月十七
日ナリ基經上表シテ政ヲ復ス天皇我今孤タ
リ若輔佐トナリテ政ヲ聽スンハ我位ヲスヘリテ
山林ニ入ントヽ宣フコレニヨリテ又其經關白タリ
仁和四年四月讃岐國旱ス國司菅丞相雨ヲ當
國城山ノ神ニ禱ル八月仁和寺ヲ造ル高野山
ノ僧貞然ヲ導師トシテ供養ヲ行ル貞然ハ弘

法ノ弟子ナリ九月畫工巨勢金岡ニ命シテ
御所ノ南庇東西障子ニ畫ヲカヽシム十月右
大臣源多薨ス歳五十九是ハ仁明ノ子ナリ
十一月大嘗會行ル
寛平元年正月元日四方拜アリ是ヨリ毎年カ
クノゴトシ大納言藤原良世左大將トナル中納
言源能有右大將トナル良世ハ良房弟ニ能
有ハ文德ノ子ナリ
五月高望王ニ平姓ヲ賜
ル桓武ノ曾孫葛原親王ノ孫高見王カ子ナリ
清盛并北條カ先祖ナリ　十月陽成太上皇在
病發テ琴ノ絃ヲ以テ女人ヲシバリテ水ノ中ニ漬
シテ又或時馬ニ乘テ驅出テ人ヲ追アリ又或時ハ

官人ノ宅ニ亂入。或ハ山ニ入テ猪鹿ヲ狩　十一
月始テ賀茂臨時祭ヲ行ル。天皇イマタ侍從タリ
シ時。即位シタマフヘキ上旨ヲ。此神ニ兼テ告ラルユ
ヘナリ　同月。基經ニ腰輿ニ乘テ。宮中ニ出入スル
コトヲ許シ。源融ニハ。輦ニ乘コトヲ許サル
二年正月十五日。七種ノ粥ヲ獻ズルコトヲ。恒例ト
定ラル　十一月。基經病アリ。天皇行幸アリテ慰勞
セラル。三井寺ノ智證來テ加持ス
三年正月十三日。關白太政大臣藤原基經薨ス。
年五十六。正一位ヲ贈ラレ。越前公ニ封シ。昭宣公ト
諡ス　三月。大納言藤原良世右大臣ト。昭宣
公ノ嫡男時平參議ニ任ス　十月。智證寂ス。三井

寺ノ開山ナリ
四年五月。時平。撿非違使別當トナル。　菅丞相ニ
勅シテ。類聚國史ヲ作シム
五年二月。時平中納言ニ任シ。右大將ヲ兼。菅丞相
參議ニ任ス。菅丞相。家業ヲ繼テ。博學文才殊ニ
スグレケル故ニ。天皇是ヲ登庸セラル　七月。中納言
在原行平卒ス。歳七十五
六年八月。菅丞相ヲ遣唐大使トシ紀長谷雄ヲ
副使トセラル。其オヲエランデ。此官ヲ授ラルトイヘ
ドモ。此比大唐亂國ト十リケルユヘ。入唐ノ沙汰ナ
シ。長谷雄モ漢書文選。其外群書ヲ讀テ。大オノ
人ナリ　九月。新羅ノ賊船五十艘許。對馬國ヘ來

太宰府ヨリ筑前守文室善方大將ニテ對馬ヘ行
向テ三百餘人ヲ討殺シ其船并武具等ヲ奪取
十二月僧益信聖寶共ニ法務ヲ掌ル益信ハ仁和
寺ニ居リ聖寶ハ醍醐ニ居ル皆眞言宗ノ名アル
僧ナリ　同月渤海ノ使者裴文籍來ル鴻臚館
ニテ迎接アリ是ハ元慶七年ニ來レル裴頲ト同
人ナリ此人菅亞相ノ作レル詩ヲ見テ大唐ノ
白樂天ニ似タリト云リ
七年三月神泉苑ヘ行幸櫻花ヲ御覽菅亞相
等供奉　八月左大臣源融薨ス歳七十三此人
六條河原院ヲ作リ庭ニ大ナル池ヲ掘毎日數百人ノ
人夫ヲ召シテ攝津尼前ノ浦ヨリ水ヲ運シメ毎月塩

三十石充其中ヘ入陸奥國ノ鹽竈ニ似セラルヽ魚鳥
出ヲカヒ草花等ヲウヱルコトアケテ計ベカラズ河原
左大臣ト號ス　十月菅丞相中納言ニ任ス
八年正月六日雲林院ヘ行幸ノリテ子日ノ遊アリ
親王公卿供奉　七月藤原良世左大臣ト十九源能
有右大臣ト十九　九月二條后（清和ノ后陽成ノ母）東光寺僧善
祐ト密通ノコトアラハレテ后ハ位ヲスベリ善祐ハ伊豆
ヘ流サル后此時五十五歳　十二月左大臣良世致
仕ス歳七十四右大臣能有政ヲ競ル能有ハ文德ノ
皇子三ツ子馬ノ藝三達シタル人ナリ源家ノ先祖貞
純親王ハ此人ノ壻ナリ子馬ノ藝ヲ相傳ス
九年六月右大臣源能有薨ス歳五十三　同月藤

原時平大納言ニ任シ左大將ヲ兼シム源光ト菅丞相
トヲ權大納言トス菅丞相ハ右大將ヲ兼テ時平ト同
ク政ヲ執行フ大臣ヲハ關白ニ置ス　七月二日
天皇位ヲ太子敦仁ニ讓テ朱雀院ニ離居時歳三十
又亭子院ト申ス後ニ髮ヲ剃ユヘニ寛平法皇ト申
ス初即位ノ翌年年號改メテ光孝仁和四年ヲ用
ユ其後寛平年號九年合テ在位十年

六十代

醍醐天皇　宇多第一ノ皇子ナリ諱ハ敦仁母ハ藤原
胤子ト云中納言高藤ノ娘ナリ寛平五年二太子ト
ナリ九年七月三日元服歳十三同日ニ讓リラウケ
テ即位宇多ヲ太上天皇ト號ス太上ノ例ヨリテ
大納言藤原時平ト菅丞相ト時大納言タリ相並テ政ヲ
行フ其儀大臣ニ准ス時平時ニ歳二十七其ワカクシ
テ其上伯父國經ノ妻ヲ奪取テ世ノ譏リアリケレ
トモ昭宣公ノ嫡男ニテ代々ノ執政ナルニヨリテ當
今第一ノ臣ニ定ラル菅丞相年五十四倭漢ノ才ヤ
リテ事ニ馳タルニヨリテ儒家ヨリ登庸シ時平ニ副
テ當今幼少ノ中ハ何事モ此兩人ハカラヒナルベシトヤ
昌泰元年二月天皇清涼殿ニテ群書治要ヲ讀タ
ヒフ紀長谷雄侍讀タリ　十月太上天皇大和攝
津ニ御幸菅丞相等供奉　十月朔旦冬至群臣賀
シ奉ル朔旦冬至ニアタルハ古ヨリ慶賀スルコトナリ
二年正月三日太上天皇ノ下ニ入ス朱雀院ヘ朝覲ノ

行幸アリ　二月藤原時平左大臣ニ任ズ左大將元
ノコトシ菅丞相右大臣ニ任ス右大將元ノコトシ源光藤
原高藤大納言トナル光ハ仁明ノ子ナリ高藤ハ天皇
ノ外祖ナリ菅丞相儒家ヨリ起テ皇子外戚ノ上ニ
位ス故ニ右大臣ヲ再ビ上表ストイヘトモ御許容ナシ
九月素子内親王伊勢齋宮トナル天皇出御アリテ
其儀式アリ中納言藤原國經ヲシテ齋宮ヲ送ラシム
十月太上天皇仁和寺ニノイテ落飾益信戒師タ
リ法名ヲ金剛覺ト云　十一月東大寺ニテ灌頂シ
太上天皇ノ尊號ヲ返シテ所々ノ名山巡見ス播良紀
トイヘル者々ノ人供奉常ニ其ヲハシヤス所ヲシルモノナ
シ天皇勅使ヲ遣シテ尋レトモ遂ズ程ヲ歴テ歸京

專佛道ニヲモムクニヨリテ法皇ト申ス是法皇ノ始
メナリ
三年正月三日天皇朱雀院ヘ朝覲シタマフ菅丞相
供奉詩ヲ獻シ御衣ヲ賜ル龍樂百人ニサカンナルニヨ
リテ時平ソネムコヽロアリ或說ニハ此時菅丞相ヲ關
白トセラルベキトノ密々ニ仰アリケレトモ堅ク辭退シテ
其披露ナシ　イヘリ　同月高藤内大臣ニ任ス藤武
ヨリ以來此官中絶セリ　三月高藤薨ス歳六十三
太政大臣正一位ヲ贈ラル　七月彗星見エ　十月
三善清行トイヘル傳學ニテ筭數ニ達シタル名人
ナリ此比文章博士ノ官ニテアリシカ書狀ヲ菅丞
相ヘ奉リ申ケルハ眼年八辛酉ニアタレリ天運命ヲ

改ルノ運ニアメレリ君拔群ノ寵恩儒家ニテハ皇言備大
臣ノ外其例ナシ尤慎ミアルベキコトナレハ官位ヲ辭退
シタマヘト申　同月法皇高野山ヘ御幸
延喜元年正月元日鍾一十五日菅丞相ヲ左宰
相ノ職ニ降シテ筑紫ヘ左遷セラル始メ宇多在位ノ時
密ニ菅丞相ヲ召テ位ヲ當今ニユヅルベキコトヲ議セ
ラル菅丞相ソカラザルコトナリトハラメ時ヲ待タ
マヘト正月其後重テ談合アリケレハ菅丞相忌其沙
汰然ベシカヤウノコトハ其時節ノブレハ他ノサマタゲアル
モノナリト奏スヨリテ天皇即位ノ時菅丞相ハ
當今ノ忠臣ナリト宇多法皇仰セラル時平年弱ニ
人皆菅丞相ヲ敬フ時平世ヲヨリ源光藤原定國

藤原菅根ナドニ議シテ或ハ菅丞相ヲ讒伏ス或ハヨ
リク讒言ヲ加ヘケルトソ天皇ノ弟ヲ齊世親王ト云
菅丞相ノ壻ナリ故ニサキニ宇多ノ讓位ヲヽサヘトメ
ラレケルハ齊世ヲ太子ニ立シトノタクミナリト時平奏
聞セラレケルトナン天皇今年十七ナレハ其實否ノ沙
汰モナカリケル力時平代々ノ執政ニテ威強テ專ニ執
行シケルトキコヘシ源光ヲ菅丞相ニカヘテ右大臣トス
法皇キコシメシテ菅丞相左遷ノ罪ヲ宥シ上ル日晦日
參内シタマヘトモ勤番ノ士門ヲ開ス夜モスガラ御門
ニ立タマヘトモ奏聞スル人モナケレハ明ル二月朔日法
皇空ク還御同日菅丞相都ヲ出テ筑紫ヘ赴ク其子
四人ハ皆流罪セラル齊世親王落飾　八月時平及

大藏善行勅ヲ奉テ清和陽成光孝ノ三代實錄五十卷ヲ撰テ奉ル善行八時平ノ師ニアル年七十二及ベリ　十二月法皇東寺ニテ灌頂シ御室ヲ仁和寺ニ造リ是御室ノ始ナリ後世ニ御門跡ト云コトヲ是ヨリ起ル

多法皇ノヲハシマス所ナレハ御門ノ跡ト云義ナリ

二年三月飛香舍ニテ藤原ノ宴アリ

三年二月二十五日菅丞相筑紫ニテ薨ス年五十九

四年二月皇子保明ヲ立テ太子トス時ニ二歳母ハ藤原穩子時平ノ妹ナリ

五年正月三日仁和寺ヘ行幸　四月時平館ニテ大饗アリ　四月紀貫之古今倭歌集ヲ撰テ奉ル　九月

法皇金峯山ヘ御幸　十一月延喜格ヲ撰ス

六年八月天皇史記ヲ讀　七月大納言右大將藤原定國卒ス天皇ノ外舅ナリ　九月伊勢鈴鹿山ニ群盜アリ其張本十六人ヲ捕テ誅ス　十二月日本紀ヲ讀畢テ管弦ヲ設ケ歌ヲヨマシム

七年十月紀州熊野神ニ從一位ヲ授ラル法皇熊野ヘ御幸

八年正月勅海ノ使裴璆來朝四月歸國

九年四月左大臣藤原時平薨ス歲三十九　正一位大政大臣ヲ贈ラル本院ノ大臣ト號ス

十年旱天變怪異等アリ

十三年三月右大臣源光薨ス歲六十九　八月大風

十四年正月京中ノ家六百餘燒ル　六月大水
七月大納言藤原忠平右大臣トナル時平ノ弟ナリ
十六年三月七日朱雀院行幸アリテ淳皇ノ五十筭
ヲ賀シ奉ラ　五月七日貞純親王薨ス清和第六
ノ皇子源家ノ先祖桃園親王是ナリ　同二十一日風
雨烈シク中納言藤原定方藤原清貫賀茂川ノ堤ヲ
巡見ス
十七年大皇洛中池涸
二十年五月渤海使裴璆又來朝ス正三位ヲ授ラレテ
歸國ス
二十一年十月少納言平惟扶ヲ勅使トシテ高野山
ヘ遣シ弘法大師號ヲ贈ラル

二十二年旱リ
延長元年三月太子保明薨ス文彦太子ト謚ス菅
丞相ノ怨靈ナリトテ其官位ヲ復ス
二年正月忠平ヲ左大臣ニ轉シテ大納言藤原定方
ヲ右大臣ニス定方ハ定國カ弟ナリ　同月天皇四十
賀ヲ行ル
三年六月天皇疱瘡
四年十二月法皇六十筭ヲ賀セラル
五年十一月左大臣忠平延喜式五十卷ヲ撰テ奉
ル　格式ハ醍醐ノ時ニ始テ撰シ清和ノ時損益アリテ
此御代ニ全備ス六十六箇國ノ風土記モ元明ノ時ニ
リ撰ルトイヘトモ代々校正シ此御代ニ成就セリ

十二月。菅證三大師號ヲ贈ラル

六年六月。小野道風ヲ召テ。漢朝ノ賢王名臣ノ德行ヲ。清涼殿ノ南庇ノ壁三カヽレタル道風ハカクレナキ能書ナリ

七年八月。洪水。田畠流レ人多ク死ス　九月。小野道風ヲ。レテ。賢聖障子ノ繪ノ名ヲ書シム

八年六月二十六日。愛宕ノ方ヨリ黑雲起リ。俄ニ大キニ雷ナリテ。清涼殿ノ上ヘ落テ。大納言藤原清貫。右中辨平希世等。侍臣數輩。雷火ニテ焼死ス。天皇火ヲ避テ。常寧殿ヘ移リタヽス。菅丞相ノ怨靈ナストコロ也。世ニ云傳ヘタリ。イフカヒナシ　九月二十二日。天皇病ニヨリテ。位ヲ御子寛明ニ讓リ。同二十九日崩ス。歳四十六　年號昌泰三年　延喜二十二年　延長八年。在位合テ二十三年。其年數久シヨリテ。延喜帝ト申スナルヘシ。醍醐寺ノ邊ニ葬ニヨリテ。醍醐天皇ト申ス

六十一代

朱雀院　醍醐第十一ノ子ナリ。諱ハ寛明。母ハ皇后藤原穩子ト云。昭宣公ノ娘ナリ

延長三年十月。三歳ニシテ太子トナル

同八年九月。讓リヲ受テ。十一月。即位。時ニ八歳。左大臣藤原忠平攝政

承平元年七月。丁多法皇崩ス。歳六十五

二年八月。右大臣藤原定方薨ス。歳六十五（三條右大臣トス）

十一月。大嘗會。一代一度ノ太神寶ヲ。伊勢及

諸社ヘ納ラル

三年正月洛中群盗起ル　二月大納言藤原仲平
右大臣トナル　忠平ノ兄十リ　十二月殿上人十餘輩
大原野ニ鷹狩其装束義ヲ盡セリ
四年山陽南海海賊起ル　菅兵ニ命シテ是ヲ捕シム
五年唐ノ呉越ノ人蔣承勲来テ羊ヲ獻ス
六年三月飛香舎ニテ弓結番アリ　六月南海
海賊ノ張本藤原純友其徒黨ヲ聚メ伊豫國日振嶋
ニ千餘艘ノ船ヲ聚メ海一往來ノ官物ヲ奪取コレニヨリ
テ紀淑人ヲ伊豫守トシテ遣サル　淑人仁愛ヲ以テ
ナツクレカハ海賊暫シヲ止ル　七月呉越ノ蔣承勲
太宰府ニ來ル　八月忠平書狀ヲ太唐呉越王ニ遣

ス　同月忠平太政大臣ニ任ス　仲平左大臣ニ任ス　藤
原恒佐右大臣ニ任ス
七年正月天皇元服　歳十五　忠平其事ヲ奉行ス　十
二月陽成太上皇七十賀ヲ行ル
天慶元年三月四日御前ニ闘鶏十番アリ　四月
十五日ヨリ二十九日ニテ毎日大地震　五月右大臣
恒佐薨ス　良世ガ子十リ
二年正月忠平六十ノ賀アリ　四月出羽國ノ夷賊
起ル　八月二十二日内裏ニテ庚申ノ遊アリ　十一
月天皇史記ヲ讀藤原在衡等侍講　十二月平
將門關東ニテ亂ヲ起シ常陸國ヘ攻入其伯父常陸
大掾平國香ヲ殺シテ一國ヲ押領ス時ニ武藏權守

興世王ト云者將門ニ云ケルハ一國ヲ掠ルモ坂東ヲ皆奪
取モ其罪同シカルベシト云ケレバ將門ケニモト同心シ即千
兵ヲ率テ下野ヲ攻國司ヲ追出シ其ヨリ上野國ヘ移
リ上総下総武藏相模ヲ從ヘテ下総ノ國猿嶋郡石
井須二都ヲ立テ將門ハ桓武天皇五代ノ孫ナレバ帝位
ニ即トモナニノ子細カアルベキトテ自ラ平親王ト號シ或
ハ新皇トモ稱ス左右大臣以下百官ヲ置タ〻暦博士ハ
カリナシ心ノ〻ニ賞罰ヲ行フ或ハ下総國相馬郡ニ
王城ヲツクルトモ云リ同シ時藤原純友海賊等ヲカ
タラヒ伊豫國ヨリ討ル備前久子高ヲ捕ヘ播磨久
嶋田惟韓ヲ生捕テ南海ヲ掠メ山陽山陰西海ヲ
奪ニース始將門純友同時ニ在京シ比叡山ニ登リ二平

安城ヲ直下テ互ニ逆心ノ事ヲ相約シ本意ヲ遂ハ
將門ハ王孫ナレハ帝王ナルヘシ純友ハ藤原氏ナレハ關
白タルヘシト云リナンヽ承平年中ヨリ將門ハ關東ヘ起キ
純友ハ伊豫ニアリ少々蜂起シケルカ今年其約ヲ違
ヘハ東西ニ一度ニ起テ天下騒動洛中ニツカナラス此
時源經基武藏ニ居ラレケルカ急キ上洛シ將門カ謀逆
ノコトヲ言上ス其早ク注進スルニヨリテ位ヲ授ラル經
基ハ貞純ノ子ナリ貞純ハ清和第六ノ皇子ナルユヘ
經基ヲハ孫王ト號ス始テ源姓ヲ賜ル多田滿中ハ
經基ノ子ナリ
三年正月將門純友降伏タ〻ニ諸寺諸社ヘ祈念セ
ラル　二月參議右衛門督藤原忠文ヲ征夷大將軍

ト。其弟藤原忠舒并源經基等ヲ副將軍トシテ關
東ヘ遣サル。小野好古藤原慶幸大藏春實等ヲ將軍
トシ。兵船二百餘艘ヲ率テ伊豫國ヘ發向ス。又東海
東山兩道ヘ官符ヲ賜リ。軍功アラハ賞ヲ行ルベキヨシ
相觸ラル　二月朔日下野押領使藤原秀郷常陸掾
平貞盛陸奥下野ノ勢ヲ催。一萬九千人ヲ率テ下野ノ
國ニヲイテ將門ト合戰ス。將門カ兵數百人討レテ引
退ク。貞盛秀郷追懸テ。十三日下總國ニ到ル。將門嶋
廣山ニ引籠ル。貞盛火ヲ放テ將門并其從類ノ家ヲ
燒。十四日將門自出テ。辛嶋ト云所ニテ戰フ。貞盛カ
放ツ矢。將門ニアタリテ馬ヨリ落。秀郷馳寄テ。將門カ
頸ヲ切ル。同時ニ其從類百九十七人ヲ殺ス。其タクハヘ
置ケル武具等ヲ取奪ヒ。將門カ兄弟數輩并其同類藤
原玄茂興世王等皆所々ニテ討レ。又貞盛ハ國香カ子
十人。父ノ仇ナレハ。珠三郎功ヲ勵ス。秀郷ハ。始ハ將門ニ從
ントテ。彼館ニ赴ク。將門既テ出迎フ。秀郷其器量輕
輕シクシテ。本意遂ヒシコトヲ見知テ。遂ニ貞盛ト
カラ合セテ功ヲ立タリ。抜東既ニ治リケレハ。三月九
日。秀郷ニ從四位下ヲ授ラル。下野武藏兩國ノ守ニ任
セラル。秀郷ハ世ニイハユル俵藤太是ナリ。其後秀郷貞盛
鎮守府將軍タリ。貞盛ヲハ從五位上ニ叙シテ。右馬助
ニ任ス。同二十五日將門カ頸京都ニ到ル　四月忠文等
駿河國清見關ヨリ歸京スヘキホトニ純友ハ伊豫讃
岐阿波淡路ヲ掠メケルカ。阿波ノ國風ト合戰シ。純友

利ヲ失テ引ノキ。其ヨリ又土佐國安藝國周防國等ヲ濫妨シ。直ニ太宰府ヘ赴キ。官物ヲ奪取ル。討手ノ大將小野好古等。純友ヲ追テ。太宰府ヘ赴ク

四年五月。小野好古等。筑前博多津ニテ。純友ト合戰

藤原慶幸。大藏春實。身命ヲ捨テ相闘フ。ニテ火ヲ放テ賊船ヲ焼　六月。純友戰敗レテ。ツキニタガフ者或降參シ。逃ウセシカバ。純友ハ小舟ニ乗テ。伊豫國ヘ逃歸ル。當國ノ警固ニ居ケル橘遠保ト云者。純友并其子重太丸ヲ討殺シテ。頸ヲ都ヘ送ル。或ハ純友生捕レテ。獄中ニ死タリトモ云リ　八月。小野好古歸洛ス　十一月。忠平攝政ヲ辭ス。勅シテ關白トシ。萬機ノ政。先忠平ニアツカリ。トノシテ後奏聞スベシ。昭宣公ノ例ノコトシ　十

二月。大赦ヲ行ル。東國西海兵亂シツヽルニヨリテナリ

五年三月。伊勢宇佐ヘ奉幣使ヲ立ラル。始テ賀茂ノ社ヘ行幸アリ。是兵亂シツヽ止ヘナリ

七年四月。藤原實賴右大臣ニ任ズ。忠平ノ嫡男ナリ

八年九月。左大臣藤原仲平薨ス。歳七十一。枇杷左大臣ト號ス

九年四月。天皇位ヲ御弟成明ニ讓テ。朱雀院ニ遷居タマフ。太上天皇ノ尊號ヲ奉ル　年號承平七年

天慶九年。在位合十六年

六十二代

村上天皇　醍醐第十四ノ子。朱雀同腹ノ弟ナリ。諱ハ成明。朱雀子十ヨリテ。成明ヲ太子トシ。位ヲ讓

ル天慶九年四月二十八日即位時三十一歲十リ。
天皇生ツキサカシクシテ。詩ヲモ歌ヲモ作リタマフ
天暦元年正月四日朱雀院ヘ朝覲ノ行幸御母皇太
后穩子ト太上天皇ト二謁セラル　四月藤原實頼左
大臣ニ轉ジ左大將ヲ兼シ其弟師輔右大臣ニ任ジテ
右大將ヲ兼シム　父忠平師ニ關白太政大臣タルコト
年久シクシテ。三至三ツ。父子兄弟ガ三人同時ニ三公タメシスク
ナキ繁榮ナリ。忠平ヲハ小一條殿ト號ス。實頼ヲハ小
野宮殿ト號ス。師輔ヲハ九條殿ト號ス。師輔ノ娘安
子。天皇ノ后タリ　六月參議藤原忠文卒ス歲七十
五。中納言ヲ贈ラル。此人將門追討ノ大將トナリテ下
向ス。路次ヨリ歸テ。戰功ナシトイヘドモ。恩賞行レ然

ルベシト。師輔申サルトイヘドモ。實頼同心ナキニヨリテ。
其沙汰ナシ。故ニ忠文怒テ。實頼ヲ恨ミ。師輔ニ讓ルベ
シトヲ云テ。斷食シテ死ス。其靈ニヨリテ。實頼ノ子孫ハ衰
ヘ。師輔ノ子孫ハ繁昌スト申ツタユレドモ。將門討レテ
數年ヲ歷テ。忠文七十餘ニテ死タレバ。世俗ノ、ハトコロ。
イブカシ　八月ヨリ以後。天下疱瘡ハヤリテ。諸社ヘ
奉幣又讀經祈念セラル　九月菅丞相ノ廟ヲ北野ニ
建　十一月宇治ヘ行幸遊獵
二年夏大旱。秋大雨　八月二十四日日月並見
三年正月。太政大臣忠平。疾ニヨリテ致仕。實頼師輔
相並テ政ヲ行フ　八月十四日忠平薨ス歲七十。正
一位ヲ贈ラル。信濃公ニ封ジ。貞信公ト謚ス。大納言

源清蔭等勅使トシテ其葬所ヘ行向フ。攝政十二年。
關白八年云云　九月陽成太上天皇崩ス。歳八十一
十二月大江朝綱橘直幹菅原文時。大江維時等ノ
博士三命シテ。詩ヲ撰シメ。小野道風ヲシテ。其詩ヲ
屏風繪上ニ書シム。繪ハ巨勢公忠カ筆ナリ
四年七月第二ノ皇子憲平ヲ太子トス
五年。藤原伊尹ヲ。倭歌所ノ別當トシテ。源順。大中臣
能宣清原元輔。紀時文。坂上望城。五人三命シテ。梨壺
ニヲイテ。後撰倭歌集ヲ作シム。順ハ。詩文倭歌共ニスグレ
テ。博學ノ人ナリ
六年八月朱雀太上天皇崩ス。歳三十
七年三月大納言兼民部卿藤原元方卒ス。歳六十

六。此人ノ娘。天皇ノ女御トナリテ。一ノ宮廣平ヲ產リ。シ
カルニ二ノ宮憲平ハ。師輔ノ外孫ナルニヨリテ。一ノ宮ヲコヘテ
太子ニ立ラル。故ニ元方恨テ憂ヒシツミテ死ス。其後程ナク。
女御モ一ノ宮モ薨セラル。太子憲平邪氣ノ病ニヲカサル。
元方カ怨靈ナリトイヘリ
九年正月內裏ニテ法華講アリ。初テ公卿ヲシテ。布施
ヲ引シム　三月。北野天神詫宣ニテ。右近馬場ニ。夜ニ
千本ノ松生ズトイヘリ
天德元年四月。師輔五十算ヲ賀シタマヒテ。藤臺ニテ
宴ヲ設テ。天盃ヲ師輔ニ賜ル
二年三月。實賴輦車ヲ許ル　十一月。源經基卒ス
三年三月。感神院ト。清水寺ト。鬪亂ノコトアリ。檢非

遣使ヲ遣シテ是ヲ治シム感神院ハ祇園ナリ　同月。
師輔春日ヘ參詣コレヨリ後藤原家大臣春日ヘ參詣
ノコト多シ春日ハ藤原氏ノ祖神ナリ
四年五月四日。右大臣藤原師輔薨ス。歳五十三。生
ツキ仁愛ニテ。喜モ怒モ色ニアラハサズ。人皆惜ム　八月。
藤原顯忠右大臣ニ任ズ。時平ノ子ナリ　九月内裏炎
上。平安城ヘ都ヲ遷サレテヨリコノカタ。帝王十三代ヲ
歴テ。始テ炎上セリ。古ヨリ傳レル御寶物モ。此時多ク
焼失セリ。神鏡ハ温明殿ニアリシカ。自ラ飛出テ。南殿
ノ櫻ノ上ニカヽリシヲ。内侍神ニウケ奉リ。神鏡ヲ内侍
所ト云ハ。是ヨリ始ル　十一月。冷泉院ニ遷居タヽフ
應和元年。十一月。冷泉院ヨリ。新造ノ内裏ヘ還幸

二年二月。伊勢。賀茂。松尾。平野。春日ヘ奉幣使ヲ立ラ
ル。賀茂松尾ヘハ。神馬十疋ヅヽ進セラル。其外諸社ヘ奉
幣使ヲ立ラル
三年二月。太子紫宸殿ニテ元服。實頼加冠タリ。參議
藤原朝忠理髮タリ　八月。實頼石清水ニ參詣。是ヨ
リ以後藤家ノ大臣。石清水詣ヲホシ　同月。叡山ノ
良源南都ノ仲算等ヲ召テ。清涼殿ニテ宗論セシム
康保元年四月。中宮藤原安子崩ス。中宮ノ妹ヲ登
子ト云。天皇ノ兄重明親王ノ室ナリ。容貌ウルハシキニ
ヨリテ。中宮ヘ參ラル、時。天皇密通ス。此時重明モ既
ニ薨シ。中宮モ崩スルニヨリテ。登子ヲ内裏ヘ召テ寵愛
セラル。コレヨリ村上ノ朝政衰ヘ又

二年四月。右大臣藤原顯忠薨ス。歳六十八　十二
月。天皇四十ノ筭ノ御賀アリ
三年正月。源高明右大臣ニ任ス。是ハ延喜ノ皇子ナリ。
八月。律師良源。天台座主トナル。慈惠僧正是ナリ
四年五月二十五日。天皇崩ス。歳四十二　年號天
暦十年　天徳四年　應和三年　康保四年在位合
テ二十一年

六十三代

冷泉院　村上第二ノ皇子諱憲平。母ハ中宮安子ト云。
右大臣師輔ノ娘ナリ。天暦四年五月三生テ。七月二太
子トナル。康保四年二月ヨリ。邪氣ノ御病アリテ。心地
常ナラス。五月村上崩ス。太子凝華舍ニテ踐祚。歳十

八　六月。藤原實頼ヲ關白トス　十二月實頼ヲ太
政大臣トス。源高明ヲ左大臣ニ轉シ。藤原師尹ヲ右大
臣トス。師尹ハ。實頼カ弟ナリ。天皇ノ弟ヲ爲平ト云。
其弟ヲ守平ト云。爲平ハ。村上ノ愛子ニテ。左大臣高
明ノ壻ナリ。天皇即位以後モ。御病愈サルニヨリテ。爲
平ヲ太子ニ立ラルベキカト。人皆思ケルカ。實頼ト高明
ト不和ナル故ニヤ。村上ノ遺勅ナリトテ。守平ヲ立テ
東宮トス
安和元年。天皇御惱シバ〳〵起ルニヨリテ。朝政多ハ實頼。
高明。師尹。執行
二年二月。右大臣師尹カ家人ト。中納言藤原兼家
カ家人ト。鬪亂シテ。師尹カ舍人一人殺サル。師尹カ

家人數百人起テ兼家カ宅ヲウチ破ル兼家ハ師
輔カ三男ニテ師尹カ姪ナリ　同年三月左馬助源
滿仲武藏ノ介藤原善時密ニ中務少輔源繁延謀叛
ノ企アリ是ハ左大臣高明カハカラヒニテ天皇ヲ推ヲ
ロシ爲平ヲ即位セシメントノコトナリト申スコレニヨリテ
實賴師尹奏聞シ高明ヲ太宰ノ權帥ニ左遷シ髮ヲ
剃シメテ筑紫ヘ流罪ス師尹ヲ左大臣トス藤原在衡
右大臣トナル檢非違使ヲ遣シテ繁延并僧蓮茂ヲ
捕テ拷問シ白狀シケレバ藤原千晴モ同類ノキコヘアー
ルニヨリテ檢非違使源滿季滿中ノ弟ヲ遣シ千晴并ニ
從兵ヲ捕テ禁獄ス禁中騷動ハナハダシ　四月高明
ノ西宮ノ家ヲ燒拂フ千晴繁延蓮茂皆流罪其同類

ヲ國々ニテ捕ヘシム滿仲善時ニ賞ヲ行ル高明ハ博
ク日本ノ舊記并ニ故實ニ通シタル人トリ其書集タル
記錄ヲ西宮記ト云千晴ハ秀鄕カ子ナリ或說ニハ高明
逆心ナシ滿仲カ讒言ナリシト實賴眞ニトリナシテ中
シ行ヒケルトモ云　八月天皇不例ニヨリテ位ヲ御弟
守平ニ讓テ冷泉院ニ遷居太上天皇ト號スコレヨ
リ以後ノ天子皆院號アリ年號安和在位二年

六十四代

圓融院　村上第五ノ皇子ナリ諱ハ守平母ハ冷泉ニ同
シ安和二年九月即位歲十一實賴攝政隨身兵仗牛
車ヲ聽サレ內覽ノ宣旨ヲ蒙ル　十月左大臣師尹薨
ス　十二月實賴七十算ヲ賀シタ

天祿元年正月藤原在衡左大臣ニ補ス藤原伊尹右大臣ニ任ス伊尹ハ師輔カ嫡男天皇ノ外舅ナリ在衡公元儒家ナリ村上ノ御時學問ヲ以テ家ヲヲコシ其娘女御ニ備ヘテ寵アリシヨリ登庸セラレタリ吉備公菅丞相ノ外儒家ノ大臣ニ登ハ在衡一人ナリ　五月攝政太政大臣藤原實賴薨ス歳七十一正一位ヲ贈ラル尾張公ニ封シ清愼公ト諡ス右大臣伊尹攝政

十月左大臣在衡薨ス歳七十九

二年三月始テ石清水臨時祭ヲ行ル勅使右中將忠清等參向　十一月伊尹太政大臣ニ任ス源兼明ヲ左大臣ト藤原賴忠ヲ右大臣トス兼明ハ延喜ノ皇子ナリ賴忠公實賴カ子ナリ

三年正月三日天皇元服ト四歳加冠ハ伊尹理髮ハ兼明ナリ　四月源高明赦シテ筑紫ヨリ歸洛

十一月伊尹薨ス年四十九正一位ヲ贈シ參河公ニ封シ謙德公ト諡ス伊尹カ弟兼通ヲ内大臣ニ任シ關白タラシムコレヨリサキ兼通參議タリシ時其弟兼家中納言タリ兼通中納言タリシ時兼家ハ大納言タリ兼通兄ニテ弟ニ起ラレタルコトヲ憤ケンニ至ニテ兼通大納言ヲ歴ス中納言ヨリ直ニ大臣關白タリ右大臣賴忠公從兄ナルユヘ政事ヲ相談シ兼家ヲ惡ミテコレヲ害セントス兼家カ宅ヘ出入スルモノヲハコレヲ叱ス

天延元年四月二十四日夜強盜源滿仲カ宅ヲ圖

テ火ヲ放ツ是ヲ防グニヨリテ強盜ハ退散ス類火ニカヽル家三百餘宇強盜ヲ尋求ムヽ武士ヲ召テ内裏ヲ守ル

二年二月兼通太政大臣トナリ輦ニ乘テ參内

十月高麗ヨリ馬ヲ獻ス

三年六月兼通以下公卿祇園ノ社ニ奉幣舞樂ヲ抱奢御願ノ驗アルニヨリテナリ　八月選子内親王賀茂ノ齋院トナル懃ニテ伊勢齋宮賀茂齋院代ヲカクルコトナシ選子ハ村上ノ娘ナリ　今年天變多シ或ハ彗星ハヽく出

貞元元年五月十一日内裏燒亡　八月ヨリ七月ニ二度ヽ大地震京中洛外寺社人家多ク倒テ人多ク死ス天皇モ中宮モ兼通ガ堀川ノ館ヘ行幸兼通其館ヲ内裏ノゴトクニシツラヒテ其著ハ又閑院ノ館ヲ造テ行幸ラナシ奉ル中宮ハ兼通ガ娘ナリ

二年四月兼通ガハカラヒニテ左大臣源兼明ガ官職ヲ止テ親王宣下セシメ中務卿ニ任ス頼忠ヲ左太臣ニ轉シ源雅信ヲ右大臣トス雅信ハ宇多天皇ノ孫ナリ兼明文才アリテ詩賦ヲ作ル延喜ノ子ニテ今上ノ叔父ナレハ兼通コレヲ忌惡テ大臣ノ職ヲウハヘリ兼明是ヨリ亀山ニカクレテ年ヲ經テ遷セリ村上ノ御子中務卿具平親王モ詩文ニ達セリ故ニ兼明ヲ前中書王ト稱シ具平ヲ後中書王ト稱ス　七月天皇新造ノ内裏ヘ還幸所々ノ額ハ藤原佐理是ヲ書佐

理ハ異朝ニテモキコヘタル就書ナリ　十月兼通疾
ニヨリテ關白ヲ頼忠ニ讓ル兼通奏シケルハ弟兼家
カ娘冷泉太上皇ニ寵愛セラレテ子ヲ産故ニ帝位ヲ
復シトスルノ志アリト讒シテ兼家カ大納言右大
將ノ官ヲ削テ治部卿ニ降ス猶アキタラス死罪流罪
カト奏シケレトモ勅許ナシ　十一月八日兼通薨ス
歳五十一　遠江公ニ封シ忠義公ト謚ス
天元元年八月兼家娘詮子ヲ召テ梅壺ニ侍ラシメ
女御トスコレヨリサキ兼通カ娘中宮タリ故ニ兼通存
生ノ内ハ他人ノ娘入内セス兼通薨スルニヨリテ詮子
入内　程ナク皇子ヲ産ム　十月頼忠太政大臣
トナル源雅信左大臣トナル兼家右大臣トナル

二年三月二十七日石清水八幡宮行幸此以後代代
代當社ヘ行幸アリ
三年二月頼忠ノ息公任清慎公元服　十月十
日賀茂ノ社ヘ行幸コレヨリ以後代代行幸アリ　十
一月二十二日内裏炎上
四年二月二十日平野ノ社ヘ行幸　七月天皇不例
叡山ノ慈恵僧正ヲ召テ加持シルシアリトテ輦ニ
乗テ宮中ニ出入スルコトヲユルサル大僧正ニ任セラル行
基以後二百餘年大僧正ナシ　九月從三位菅原文
時卒ス歳八十三菅丞相ノ孫ニテ文オスクレ村上
ノ侍讀タリシ人ナリ　十月新造ノ内裏ヘ還幸
五年正月叡山ニテ慈覺智證ノ兩門派相爭テ騒

動ス。藏人平恒昌ヲ勅使トシテ。登山コレヲ慰メ。慈
惠ヲ召テ是ヲ止シム　九月。叡山僧奇然大宋國ヘ
赴ク　十一月十七日。内裏略線天皇堀川院ニ遷ル。
永觀元年二月。檢非違使二命シテ。京中幾内ニタリ
ニ弓箭兵仗ヲ帶スル者ヲ改捕シム　三月圓融寺ヲ
作テ供養ス。叡山ノ慈惠。仁和寺ノ寛朝等僧綱皆
參ル
二年八月。天皇位ヲ御姪師貞ニ讓ル。太上天皇ノ尊
號ヲ奉ル　年號天祿三年　天延三年　貞元二
年　天元五年　永觀二年。在位合テ十五年
六十五代
花山院　冷泉第一子。諱師貞。母ハ藤原懐子。攝政伊
尹ノ娘ナリ。圓融院ノ東宮トナリテ。永觀二年。八月二
十七日ニ讓リヲウケテ即位。時十七歲。頗忠關白元ノ
コトシ。此時ニ冷泉圓融皆存生ニテ。共ニ太上天皇ト稱
ス
寛和元年四月。藤原齊明其弟保輔ト。惡黨ノ非本
ニテ。藤原季孝。大江匡衡ヲ刃傷シ。匡衡カ左手ノ指
切落サル。齊明保輔行方シラズ逃亡ス。諸國ヘ下知ス
齊明ヲ。近江高嶋郡ニテ誅セラル　天皇即位ノ三年。
關白頼忠ノ娘ト。爲平親王ノ娘ト。大納言藤原朝
光カ娘ト。二人ヲ召テ女御トス。又大納言藤原爲光
カ娘恒子ヲ召テ。弘徽殿ニ置テ女御トス。其寵愛セラ
ルサキノ三人ノ女御ハ。アレトモナキカコトシ。幾程ナク。

恒子病デ死スヽ天皇ナゲキカナシミテ邪狂ノ病ヲウケ
世ヲ捨ルノ志アリ御父冷泉上皇モ此病アリテ猶イ
トダイエス天皇又シカリトテ近臣等コレヲイサムレト
モ悲歎ヤマズ　同年八月ニ圓融太上皇落飾ス法
皇ト稱ス圓融院ニ遷リ居タマフ
二年天皇弘徽殿ノ女御ヲ棄テ出家ノ志イデキ
シカハ六月二十二日ノ夜中密々貞觀殿ノ小門ヨ
リシヲビ出テ藏人藤原道兼ト僧嚴久ハカリヲ供ニ
テ花山寺ニヲモムキ落飾ス御歳僅十
九人コレヲシルコトナシ天文博士安倍晴明何心モナク
庭ニ出テ天ヲ見テ天子位ヲサルベキ天變アリト大
ニ驚テ急參内スレハ天皇ヽシヽサス百官皆來テ尋又
レドモ見ヘタマハス夜アケテ處々ヲ尋求ケレハ花山寺
ニテ天皇既ニ僧トナリタルヲ見テ皆驚ク中納言藤
原義懷左中辨藤原惟成ハ常ニ近習シケルユヘ同剃髮
ス在位二年年號寛和

六十六代

一條院　圓融第一ノ子諱ハ懷仁母ハ梅壺女御藤原
詮子右大臣兼家娘ナリ花山即位ノ時懷仁ヲ東
宮トス花山遁世ノ時兼家急キ參内シテ東宮ヲ守立
即位時ニ七歳兼家攝政ス右大臣ヲ辭シテ其弟爲
光ヲ右大臣トス此時冷泉ヲ太上天皇ト稱ス圓融
花山皆共法皇ト稱ス三人共ニ政ニカヽハス何事モ
皆兼家執行フ

永延元年正月高然來ヨリ歸ル佛像一切經等ヲ持
テ來ル　十月兼家カ東三條ノ館ヘ行幸　十一月右
清水ヘ行幸　十二月加茂ヘ行幸コレヲ兩社行幸ト
云
二年六月強盜ノ張本藤原保輔ト云者中納言藤
原顯光カ家ニ籠居ル官兵ヲ遣レテ此ヲ捕フ保輔
自害ス　八月兼家二條京極ノ宅ヲ作テ百官ヲ
招テ遊宴ス源頼光駒三十匹ヲ牽來ル左右大臣
以下ニ此ヲ配分ス　十一月兼家カ館ニ行幸其六十ノ
算ヲ賀ス家司二人任官
永祚元年正月圓融院ノ法皇ヘ朝覲ノ行幸　二月
兼家嫡男道隆ヲ内大臣ト左大將ヲ兼ル　三月

春日行幸　六月前關白藤原頼忠薨ス歳六十六
駿河公ニ封レテ廉義公ト謚ス　八月大風宮城諸門
其外神社多ク顛倒　十二月兼家太政大臣ニ任ス
正暦元年正月天皇元服十一歳　五月兼家病ニ
ヨリテ髮ヲ剃テ東三條ノ大入道ト號ス道隆ヲ攝
政トシテ兼家ニ代テ政ヲ行ヒム　七月二日兼家薨
ス年六十二病中出家スルニヨリテ謚ナシ其館ヲ寺
トシテ法興院ト號ス攝家ノ院號是ヲ始トス
二年二月圓融法皇崩ス歳三十二　九月右大臣
藤原爲光ヲ太政大臣トス源重信ヲ右大臣トス
藤原道兼ヲ内大臣トス重信ハ左大臣雅信カ弟道
兼ハ道隆カ弟ナリ　十月梅壺ノ皇太后詮子尼ト

十八東三條院ト號ス后ノ院號此ヨリ始テ女院ト稱
ス
三年六月太政大臣爲光薨ス歳五十一。相摸公ニ
封シテ恒德公ト謚ス　十二月源忠良三勅ノ海賊ノ
張本阿閑梨ヲ捕フ
四年四月道隆攝政ヲ辭シテ關白トナル　三月菅
丞相ニ太政大臣正一位ヲ贈ラル勅使筑紫ノ安樂
寺ヘ下向ス　七月左大臣源雅信薨ス歳七十四。此
人ノ娘倫子公兼家ノ二男道長ニ嫁ス
五年三月源滿政平惟時源頼親源頼信等ノ武士
ヲレテ處々ヘ分遣シ群盜ヲ捕シム　七月源重信ヲ
左大臣ニ轉シ道兼ヲ右大臣ニ上ル道隆カ長男伊
周ヲ内大臣トス
長德元年正月女院ヘ朝覲ノ行幸　三月道隆病
ニヨリテ落飾ス關シテ其子伊周ヲ假ノ關白トスイ
クホドナク道隆薨ス歳四十三　四月右大臣道兼
ヲ關白トス伊周怒テ叔姪ノ間ヘツヽシカラス道兼ヲ
調伏ス　五月七日左大臣源重信薨ス歳七十四。
八日關白道兼薨ス粟田關白ト云ハ是ナリ十一日
道兼カ弟左大將道長ヲ關白トス道兼カ早世ヲ聞
テ伊周ヨロコフ已關白タラント思所ニ女院ノ心ニヨリテ
道長任ゼラレケレハ癡不平ナリ又道長ヲ調伏スレカ
ヒトモ其驗ナシ此時疫病ハヤリテ公卿以下多ク病死ス
七月道長右大臣トナル此ヨリ道長朝政ヲ專シイ〻

二年正月花山ノ法皇畿内近國ヲ巡見シテ京ヘ飯リ鷹司ノ四ノ君ト云ヘル女房ニ通ゼラレ河ノ君ノ姉三ノ君ニ伊周密通ス法皇シバ〻馬ニ乗テ四ノ君ヘカヨヒタマフヲ三ノ君ヘカヨフカト伊周疑テ弟中納言隆家ト謀テ月ノ夜法皇ヲ子ラヒテ矢ヲ射カケ奉リシ中ル法皇驚クトイヘトモ此ヲ恥テ不言サレトモ其事カクレナキニヨリテ西月伊周ヲ筑紫ヘ流ス隆家ヲ出雲ヘ流スヘシト上ノ源頼光同頼親等ヲシテ禁中ヲ守ラシメ捕非違使ヲシテ伊周隆家ガ宅ヲ圍シメテ其官位ヲケヅリテ配所ヘ遣ス姫道隆存生ノ時道長ト不和ナリ道長能姉ノ女院ヘミヤヅカヘ申スニヨリテ其ニ公ツヽシ伊周ハ嫌流ナレトモ道長ニヨヘラルヲ怨テ女院ヲモ調伏スル由其聞ヘアルニヨリテ花山法皇ヲ射ケル罪科色々申タテ道長沙汰セリ　七月道長左大臣トナル藤原顕光右大臣トナル兼道ガ子ナリ

三年四月伊周隆家召歸サル中官定子皇子ヲ誕生スル故ナリ定子ハ伊周カ妹ナリ伊周流罪ヲ憤テ髪ヲヽロシタマフサレドモ寵愛カハラストナン　七月大納言藤原公季内大臣トナル師輔ガ末子道長カ叔父ナリ　八月多田滿仲卒ス寛和ノ比ヨリ剃髪シテ攝州多田院ニ閑居セリ今年八十八トゾキコエシ其子頼光頼親頼信武藝三道ニ朝家ノ守タリ

四年九月筑紫ノ海嶋ニテ南蠻人ヲ捕ヘ由太宰府ヨリ註進

長保元年三月關東ニテ下野守平維衡貞盛子平致頼ト私ニ合戰スルニヨリテ明法博士ヲシテ其罪ヲ論セシム致頼流罪　八月太宰府ヲシテ南蠻ノ海賊ヲ討シム　十一月道長カ娘彰子ヘ内藤臺ノ女御上號ス其後中宮定子崩ス彰子中宮ト十九

三年五月疫病ハヤルニヨリテ紫野ニ社ヲ立テ疫神ヲ祭テ今宮ノ御靈ト號ス　十一月内裏燒亡　十二月東三條ノ女院詮子崩ス

四年三月僧寂照大宋國ヘヲモムク此人ハ異朝ニ止テ歸朝セス　五月二十一社ノ奉幣使ヲ立ラル

五年十月新造ノ内裏ヘ還幸

寛弘元年十月始テ北野ノ社ニ行幸アリ

二年二月伊周ヲ赦シ參内セシメ朝政ニ預ラシム

五年正月伊周ヲ大臣ニ准シテ封戸ヲ給フ此ノ儀同三司ト云其儀三公ニ同シト云義ナリ　二月花山法皇崩ス歳四十一　四月中宮彰子上東門院ヘ遷居給フ是ニヨリテ上東門院ト申ス紫式部此中宮ニミヤヅカヘ申セリ賀茂齋院選子内親王ヨリ上東門院ヘメツラシキ草子ヲ所望セラル、ニヨリテ紫式部一源氏物語ヲ作ラシメテ齋院ヘ進セラル、ト云傳タリ

六年七月二品中務卿具平親王薨ス歳四十六

十二月參議菅原輔正卒ス歳八十五此人ハ家業

ヲ繼テ博學ナリ死シテ後ニ北野ノ社ニ祭ル

七年正月伊周薨ス歳三十七

八年六月十三日天皇病ニヨリテ位ヲ東宮居貞親王ニ讓リテ二十二日崩ス歳三十二　年號永延

二年　永祚一年　正暦五年　長徳四年　長保

五年　寛弘八年在位合テ二十五年

六十七代

三條院　冷泉院第二ノ子諱ハ居貞母ハ皇大后藤原超子ト云攝政兼家ガ娘ナリ一條即位ノ時居貞ヲ東宮トス寛弘八年六月讓ヲ受テ即位歳三十六道長朝政ヲ執ル前ノコトシ　十月冷泉太上天皇崩ス歳六十二

長和元年正月道長娘姸子ヲ中宮トス　三月三十一社ニ奉幣五穀ヲ祈ル

二年九月道長ガ館ニ行幸　十一月石清水ヘ行幸

十二月賀茂行幸此ヨリ以後代々兩社行幸アリ　同月中宮少進藤原雅信ト云者同所ノ士藤原惟義ニ殺サル道長怒テ惟義ヲカラメテ禁獄ス

三年二月九日内裏燒亡　五月道長ノ館ニ行幸

競馬騎射等ノ御遊アリ　六月敵山惠心院僧都源信寂ス

四年九月内裏造畢　十月道長五十ノ算ヲ賀セラル　十一月内裏又炎上

五年正月天皇御目クラキ疾アリテ位ヲ東宮敦成ニ讓ル太上天皇ノ尊號ヲ奉ル在位五年　年號ハ長和

六十八代

後一條院　一條院ノ子ナリ諱ハ敦成母ハ中宮藤原彰子上東門院ト號ス　左大臣道長ノ娘ナリ三條院即位ノ時敦成東宮ト立ル長和五年正月二讓ヲ受テ即位九歳ナリ外祖道長攝政其儀忠仁公ノ例ノ如シ三條ノ皇子敦明ヲ東宮ト立ラル

寛仁元年正月二十二日夜強盗内裏ヘ入ル瀧口ノ内舍人藤原長輔ト道長ノ隨身藤原良孝ト出向テ此ヲ射殺ス二人ニ賞ヲ行ハル　三月道長左大臣ヲ辭シテ右大臣顯光ヲ左大臣三轉シ内大臣公季ヲ右大臣トシ道長ノ嫡男大納言頼通ヲ内大臣トス道長又攝政ヲ頼通ニ讓ル頼通時三十六歳頼通ノ弟中納言教通左大將ト十九　五月三日道長棧敷ヲ一條ノ町ニ立テ三千餘人ニ施行ス　同月九日三條院太上天皇崩ス歳四十二　六月二十七日盗道長ノ庫ヘ入テ沙金千三百餘兩ヲヌスミテ逃走ル月ヲ歴テ播磨國ニテ件ノ盗ヲ捕タリ八月東宮敦明親王邪氣ニヨリテ自ラ位ヲ退テ小一條院ト號シ太上天皇ニ准ス御弟敦良ヲ東宮トス此モ道長父子ノハカラヒナルヘシ冷泉圓融ノ兩流カハルヽ在位ナリシカヽ三至テ冷泉ノ皇統ハ絶タ

リ　九月道長石清水ニ參詣公卿以下相從ヒ遊女
等出迎フ淀川ヲ渡ル時舟五十餘艘アリ其内一艘乘
沉テ死スル者三十餘人　十二月道長太政大臣ニ
任ス攝政頼通勅使タリ
二年正月三日天皇元服道長加冠頼通理髮タリ
三月道長ノ娘威子入内女御トナル其後中宮トナル
十月道長カ舘ヘ行幸
三年三月道長落飾歳五十四世ノ人是ヲ入道殿ト
云世人剃髮スル者ハカリテ入道トヽハス　四月日
異國ノ海賊五十餘艘壹岐嶋ヘ亂入テ嶋守藤原理
忠ヲ害スル由太宰府ヨリ申ヨリテ宰府ノ官兵ヲ以
テ賊ヲ平ゲレム　九月道長東大寺ニテ受戒シ　十

一月ニ又叡山ニテ受戒　十二月頼通攝政ヲ止テ
關白トナル
四年二月道長法成寺ヲ作リ新ニ堂ヲ作テ無量
壽院ト號ス丈六ノ阿彌陀九體ヲ安置ス其外ノ
佛像モ多シ　七月大風殿門多ク損ス
治安元年五月左大臣藤原顯光薨ス歳七十八
七月右大臣公季ヲ太政大臣トス關白内大臣頼
通左大臣トナル藤原實資右大臣トナル藤原教通
内大臣トナル　十月春日ヘ行幸
二年七月道長法成寺ノ金堂ヲ作テ供養ス　天皇行
幸アリ太政大臣公季以下皆參詣御齊會ニ准セ
ラル太皇太后彰子皇太皇后妍子中宮威子皆行

啓アリ。此三后ハ。皆道長ノ娘ナリ。此御堂ヲ作ニヨリテ。
道長ヲ御堂ノ關白ト號ス。萬壽元年三月京中強盜
多シ。檢非違使此ヲ捕フ　九月。頼通カ館ヘ行幸
十二月。大納言藤原公任致仕ス。頼忠ノ子。詩歌管絃
ノ達者ナリ。倭漢朗詠ハ此人ノ撰ナリ
二年八月。尚侍藤原嬉子ハ。道長第三ノ娘ナリ。東宮
敦良ハ。參リテ寵セラレ。皇子ヲ誕生。三日ヲ歷テ卒ス。
歲十九。一條院ノ御時ヨリ以來。道長吉事ノミウチツ
ヅキシカコヽニイタリテ憂ニアヘリ。嬉子ニ正一位ヲ贈
ラル
四年正月。上東門院ヘ行幸アリ。　九月。皇太后妍子
崩ス。道長ノ娘。三條院ノ后ナリ。時ニ歲三十四　十一

月。道長病アリ。上東門院モ。中宮モ。樣々ノ祈念アリ。
二十六日。法成寺ヘ行幸アリテ。道長ノ病ヲ訪ヒ給
フ　十二月朔日。道長薨ス。歲六十二。三代ノ間攝
政關白三テ。天下ヲ下知スルコト三十餘年。一條ニ三條當
今。東宮皆其壻ナリ。男子ハ皆攝關大臣卿相ト十ル
攝家ノ繁昌。此ニ極レリ。赤染衛門カ作リシ物語四十
卷ハ。大半道長榮花ノ事ヲ記セリ　同月四日。大
納言藤原行成卒ス。歲五十六。能書ノ人也。世尊寺
ノ家ノ祖ニテ。代々能書ヲホシ
長元元年四月。肥後守高階成章。藤原時遠平ノ爲行
等。私ニ合戰セントス。其罪科ヲ定ラル　六月。前上總
介平忠常下總ノ國ニテ亂ヲ起ス。右大臣實資奉リ

テ撿非遣使平直方中原成道ヲ遣シ東海東山ノ
兵ヲ遣テコレヲ討シム
二年五月關白頼通白川別業ニ大臣以下ヲ招競馬
舞樂アリ道長薨シテ後頼通相繼テ政ヲホシヒマヽ
ニス　十月太政大臣藤原公季薨ス歳七十二甲斐
公ニ封シテ仁義公ト謚ス此以後謚號ノ沙汰ナシ君
臣共ニ院號アルユヘナリ公季ヲ閑院大臣ト號ス其
子孫清華三流アリ三條西園寺德大寺是ナリ　十
二月撿非遣使中原成通召歸サル忠常ヲ討テ功ナ
キユヘナリ
三年三月安房守藤原光業國ヲ捨テ上洛忠常ヲ
懼テナリ平政輔ヲ安房守ニ任セラル　九月忠常

兵威強クシテ平直方モ功ナキニヨリテ召歸サル甲斐
守源頼信ニ命ジテ坂東ノ軍勢ヲ集テ忠常ヲ討シ
ム
四年四月頼信兵ヲ率テ忠常カ城ヲ攻其城海邊
十九ユヘ忠常兼テ下知シテ船ヲ悉トリカクシケレハ頼
信濟ルベキヤウナシトカレドモ頼信知勇カヲソナハリ
ユヘ淺瀬ナルベキ所ヲ推量テ馬ヲ海ヘウチ入ケレハ士
卒ノ中ニ淺瀬ノ案内ヲシリタル者アリケレドモ始
ハ默シテイハザリケルカ大將ノイサメル勢カラ見テ其淺
瀬ヲ導クニヨリテ軍勢皆馬ニテ海ヲ渉ル忠常見
テ其威ニヲソレ叶フヘシトコトワリテ降參ス頼
信即チ忠常ヲ召具シ上洛ス義濃國ニテ忠常病死

ス。其頸ヲ斬テ京ニ送リ。獄門ニ曝ス　十月。上東門
院八幡住吉參詣
六年十一月。從一位源倫子。七十ノ賀アリ。コレハ道
長ノ室ニテ。上東門院中宮頼通等ノ母ナレバ。天皇
ノ外祖母ナガラ姑ナリ
七年九月。大中臣輔親勅使トシテ。伊勢ヘ參宮。終實
ノ中ニテ青玉ヲ得テ。歸京シテ奉ル
八年六月。賀茂齋院選子内親王薨ス。歳七十二。
上東門院ト甚睦シ
九年四月十七日。天皇崩ス。歳二十九。中納言源顯基。
近臣十人ニヨリテ。追慕シテ。大原ニテ出家ス　同年
九月二。中宮威子モ崩ス　年號寛仁四年　治安
三年　萬壽四年　長元九年。合テ在位二十年
六十九代
後朱雀院　一條ノ子。諱ハ敦良。母ハ上東門院ニテ。
後一條院ト同腹ナリ。寛仁元年。東宮ト十ル。長元
九年七月。二十八歳ニテ即位。外舅左大臣頼通相
替ラズ關白トナリテ。政ヲ執ル
長暦元年正月。頼通娘嫄子ヲ女御トス。天皇東宮
ニアリシ時。道長ノ娘嬉子參テ。皇子親仁ヲ生ム。
嬉子卒ス。其後ニ三條院ノ娘禎子内親王ヲ御息
所トシ。皇子尊仁ヲ生リ。嫄子ハ。天皇ノ兄敦康親
王ノ娘ナリシヲ。頼通養テ入内セシメ　三月中
宮ニ立ラル

二年正月上東門院ヘ朝覲ノ行幸　同年ノ冬三井寺ノ明尊僧正ヲ天台座主トス

三年二月叡山ノ衆徒等狀ヲ頼通ニ捧テ明尊ハ智證ノ門流ナリ慈覺ノ派ニアラザレハ座主ニ任ゼズト訴フ頼通何ノ門流ニテモ其人ニヨルベシト云山徒怒テ大勢ニテ頼通ノ館ニ來テ嗷訴シテ門柱ヲ打破ル頼通怒テ平直方ヲシテ山徒ヲ防シム互ニ相戰死傷ノ者多シ山徒ノ張本定勢ヲ捕テ禁獄ス　五月上東門院落飾明尊戒師タリ　同八月二十二日二十二社奉幣ノ勅使ヲ定メラル二十二社トハ伊勢石清水下上賀茂松尾平野稲荷春日大原野大神石上大和廣瀬龍田梅宮吉田廣田祇園北野丹生貴布禰ナリ毎年其社々ノ氏子ヲ勅使トシ奉幣セラル

長久元年九月内裏炎上神鏡燒クシカレドモ猶光ヲ現スルニヨリテ其灰ヲアツメテ安置ス天皇ハ東北院ヘ遷リタマフ此院ハ上東門院ノ造リトコロ法成寺ノ傍ニアリ

二年三月四日花宴アリ文人詩ヲ獻シ其才ヲ試ラル此ハ異朝ノ及第ニ准シテ嗟峨淳和ノ比ヨリ毎年行ハレ此時マデモ絶ストナン

三年三月大納言源師房娘女御トナル師房ハ村上ノ孫具平ノ子道長ノ婿ナリ此家ヲ村上源氏ト號シテ清華ノ族ナリ今ノ久我中院等ノ祖ナリ

四年夏旱ス。僧二海禱ヲ祈テ驗アリトテ輦ヲ許サル

寛德元年十月上東門院不例ナリケレバ。萬人ノ僧ヲ聚。供養セラル

二年正月十八日。天皇崩ス年三十七。生レツキサカシクヽシヽ世ヲモ政務ハ皆頼通沙汰シケレバ。御心ノヤヽナラズ 年號長暦三年 長久四年 寛德二年。合テ在位九年

七十代

後冷泉院 後朱雀ノ長子。諱ハ親仁。母ハ藤原嬉子。道長ノ娘ナリ。後朱雀即位ノ時親仁ヲ太子トス。寛德二年四月三即位。御歳二十一。頼通開白元ノゴトシ

永承元年正月。右大臣藤原實資薨ス。歳九十。實頼ノ孫ナリ。小野ノ右大臣ト號ス。此人ノ作レル記錄ヲ。小右記ト號ス 七月後一條ノ皇女章子ヲ中宮トス

二年八月教通内大臣ヨリ右大臣ニ轉ジ。大納言頼宗内大臣トナル。皆頼通カ弟ナリ

四年十一月殿上ノ歌合アリ。コレハ村上ノ御時ヨリ。代々興行セラルヽコトナリ 十二月春日行幸。諸國ノ神社ヘ佛舍利ヲ一粒ヅヽ納ラル

五年十月祖母上東門院ヘ行幸 十一月頼通ノ娘寛子ヲ皇后トス。中宮トハ同ジヤウノコトナレド

モ光仁ノ時ヨリ中宮皇后並立ラレ先例多シ

六年頼通宇治ノ平等院ヲ建ツ　今年奥州ノ夷賊安倍頼時ト云フ者亂ヲ起シ國中ヲ掠ルニヨリテ源頼義ヲ陸奥守トシ鎮守府ノ將軍ヲ兼シメテ東征セシム頼義ハ滿仲ノ孫頼信ノ子ナリ頼信ノ忠常ヲ討シ時ヨリ頼義既ニ軍功アルニヨリテ關東ノ武士皆是ヲヲモンズ頼義奥州ヘ入レカハ頼時ヲソレテ降參シ國中早クシズマルトコロニ頼時カ子貞任法ニ背ヨリテ罪ニ行ントス頼時怒テ貞任相共ニ衣河ノ館ニ引籠テ頼義ニ從ハスコレニヨリテ軍勢一萬ヲ聚衣河ヲ攻圍テ合戰止コトナシ

七年十一月松尾平野ヘ行幸此兩社ヘモ行幸ノ先例多シ

天喜元年六月頼通母源倫子薨ス歳九十天皇ノ曾祖母ナリ

五年九月頼義奥州ニテ安倍頼時ト合戰ス頼時矢ニアタリテ死ス貞任殘黨ヲ聚テ河崎ノ柵ニタテコモル或ハ河堰城トモ云リ　十一月頼義千百餘人ヲ率テ貞任ヲ攻ム貞任四千人ヲ率テ防キ戰フ折節風雪烈シク官軍兵糧竭テ大ニ破レテ死ル者數百人頼義其嫡男義家郎從藤原景通大宅光任清原貞廣藤原範季藤原則明トワツカ七騎ニウチナサレ大敵ニ圍ル義家時三十歳許強弓精兵ニテ敵ヲ射殺コト甚多光任等命ヲ輕ジテ防キ戰フ敵戰勞シ

テ引退ク。頼義父子一、ヌカレテ。國府ニ歸ル。此時敵義
家ノ武勇ヲ畏テタヾ、人ナラズ。八幡太郎ト申スベシ
トイヘリ。コレヨリ義家ヲバ八幡太郎ト號ス。一說ニハ
石清水八幡宮ニテ。元服スルニヨドテ。其稱號トストイ
ヘリ　十二月。頼義出羽國司源齊頼等以下諸國ヘ
觸テ。軍勢ヲ招トイヘトモ。兵粮乏キニヨリテ來ル者
ナシ。故ニ貞任イヨ〳〵逆威ヲ振テ。官物ヲ押領ス。或
說ニ。齊頼ハ鷹飼ナリ。頼義ニ從テ奥州ニアリトイ
ヘリ
康平元年八月。大極殿炎上
三年七月。關白頼通左大臣ヲ辭シテ。教通ヲ左大
臣トシ。頼宗ヲ右大臣トス。頼通カ長男大納言師實

ヲ内大臣トス。父子兄弟四人。任槐ノ三ナラズ。此時
當官ノ大納言四人ノ内。能信長家ハ頼通カ弟ナ
リ。源師房ハ妹壻ナリ。信家ハ頼通カ姪ニテ。教通カ
子ナリ
四年十一月。頼通七十ノ算ヲ賀ス　十二月。頼通
大政大臣ニ任ズ　七月。石清水賀茂行幸
五年春。源頼義陸奥國司ノ任終ルニヨリテ。高階經
重ヲ國司ニ任ゼラレ。下向スト云トモ。貞任ガ勢ニヲソ
レ。ソノウヘ國中ノ兵皆頼義ニシタガフニヨリテ。經重
帰洛ス　同年ノ七月。出羽國仙北ノ住人。清原武
則。一萬人ノ兵ヲツヽメテ。頼義ヘ加勢シケレバ。頼義コ
レニカヲ得テ。八月出陣。貞任カ叔父僧良照ガ

コモリシ小松ノ柵ヲ攻破ル貞任ガ弟宗任來テ合戰ス頼義ノ郎從等ヨク戰シカバ宗任敗テ引退ク。九月五日貞任自ラ八千餘人ヲ率テ來ル武則コレヲ見テ彼カ城ヲ出テ戰コトハ味方ノ勝利ナリト云。頼義ケニモナルトテ武則ト相共ニ諸軍ヲハケマシ合戰ス午ノ刻ヨリ酉ノ刻マデ義家及其弟義綱イサミスヽンデ攻ケレバ貞任戰ヘケテ磐井河ヘデ引退ク官軍ツヾキテ攻ケレバ貞任衣河館ヘ逃入ル六日頼義衣河關ヲ打破ル貞任鳥海柵ヘカクル十一日官軍鳥海ヲ攻貞任ガ兵處々ニテ多ク討レテ厨川柵ニコモル十四日厨川ヘ押寄テ十六日終日終夜相戰テ寄手モ城中モ討ルヽモノ多シ十七日貞任城ヲ出テ自ラ拒戰フ官兵鉾ヲ以テ貞任ヲツキタフシ楯ニノセテ頼義ノ前ニ至ル其長六尺アヽリ腰ノフトサ七尺四寸ノ大男ナルユヘニ八人シテコレヲ舁出タリ貞任遂ニ死スル歳三十四其子千世童子十三歳城ヲ出テ合戰ス頼義其勇ヲ感ジテ生ルサント云ヽルヲ武則ス、メテコロサレシ貞任カ弟重任家任并其黨藤原經清等皆斬殺サル宗任并其弟則任叔父爲元等降參シ二國中悉ク平ク永承六年ヨリ康平五年ニ至テ十二年ノ間合戰ノタビコトニ義家武勇拔群ナルニヨリテ武則ヲ始テ東國武士皆悉テ服ス

六年二月頼義ノ使者上洛シ貞任家任經清カ首

ヲノ獻ル。京中貴賤群聚シテコレヲ見ル。頼義正四位下
ニ叙シ。伊豫守ニ任ゼラル。義家ハ從五位下。出羽守ニ
叙任セラル。義綱ハ左衛門尉ニナサル。武則ハ從五位下
ニ叙シ。鎮守府將軍ニ任ゼラル。使者藤原季俊・物部
長頼ニモ賞ヲ行ハル
七年十月東北院ヘ行幸アリテ。祖母上東門院ヘ謁セ
ラル
治暦元年二月堀川右大臣藤原頼宗薨ス。歳七十
三　六月藤原師實右大臣ニナリ。源師房内大臣ト
ナル　九月宸筆金字ノ法華八講行ハル　十月法成
寺造替供養ノ日行幸
三年十月十五日頼通カ申請ニヨリテ。宇治平等院
ヘ行幸。詩歌管絃船遊等ヲモヨホス。其經營ノ具ハ
金銀珠玉ヲ以テカザレリ。頼通准三后ノ宣旨ヲ蒙
リテ七日ニ還幸。頼通年スデニ七十ニアヽルユヘ。此所ニ
山莊ヲカヽヘ常ニ住ケルユヘ。宇治關白ト號ス。關白ヲ
上表ストヽ云トモ。勅許ナキユヘ。宇治ニ居トイヘトモ朝務
太小トナク。アヅカリ沙汰セリ
四年正月元日。日蝕シケレバ。先例ニヨリテ。御殿ニ簾ヲ
垂テ。朝拜ノ禮行ハレズ　四月十九日大皇崩ス。歳四
十四　年號永承七年　天喜五年　康平七年
治暦四年。合在位二十三年